



市報へのAR導入

総務部市長公室

市報を開く一つのきっかけに

- 市報配布部数 22,198部(12/1号)
(市内全世帯と事業所の一部に配布)
- H22年アンケートでは、読んでいる人が全体の5割強。広報紙は勝手に送られてくるもので、読者にはあまり興味がないことが多い
- 若い世代に興味をもってもらうために
→スマートフォンを市報にかざすと画面の
写真が動画に変わるARを導入
- 平成27年4月1日号から1日号を中心に掲載中

AR(拡張現実)とは

- Augmented Reality(拡張現実)とは、人が知覚する現実環境をコンピュータにより拡張する技術、およびコンピュータにより拡張された現実環境そのものを指す言葉

(Wikipediaより引用)

- スマートフォンを使って、広報紙という現実
に、動画を付加するという拡張を行う

ARを体験してみよう

- 無料アプリ「Aurasma (オーラズマ)」をダウンロードし、天童市をフォローする



- ARマークのある写真にスマホをかざすと動画が再生する

「写真が動画に変わる」ARの設定方法

- ① AppstoreまたはGooglePlayストアで「Aurasma」を検索し、インストールする。
- ② 「Aurasma」を起動し、位置情報は「いいえ」を選択。一番右ページへスクロールし、画面右下の「Skip」を選択する。
- ③ 起動後、▲マーク→ 🔍マークを選択。「天童市」で検索し、「天童市's Public Auras」を選択する。
- ④ 画面右上の「フォローする (follow)」を選択し、📷マークを押す。カメラモードに切り替わるので、AR写真にかざす。



▲ iphone,ipad

▼ android



ARは誰でも作れます

- 写真を撮る（QRコードの役割を果たす）
- 動画を撮る
- 動画を編集する
- オーラズマのウェブサイト写真と動画をアップロードする

（メリット）

- 自分で撮影・編集すれば、経費は掛からない。
- オーラズマのアップロード費用（サーバー使用料）も無料。

山形新聞でAR導入をPR

- 山形新聞
平成27年
4月3日発行

地域 山形 新聞 7月1日 (第三種郵便物認可)

スマホをかざすと 写真が動く AR採用



天童市は市報を若い世代にも読んでもらおうと、掲載された写真にスマートフォン(多機能携帯電話)やタブレット端末をかざして見ると、写真が動き出す「拡張現実(A.R)」を採用した。初回の運用となる4月1日号の市報「てんどう」では、特定のマークが付いた写真4枚から料理の作り方や子どもたちの元気な様子を見ることが出来る。

天童市報、素早く動画に

ARは、紙面の写真を撮影するようスマートフォンなどをかざすと、画面に映った写真が動画に切り替わる仕組み。天童市の担当者は昨年11月、横浜市で開かれた自治体向け研修会に参加した際、全国で市報への活用が広まりつつあることを学び、導入することにした。

無料のアプリケーションで掲載用の写真を登録すると、その写真がQRコードのような役割を果たす。動画サイトへ誘導するのではなく、スマートフォンへ誘導するのとは異なり、そのまま、写真の部分だけが動画になる。動画の登録作業は労力程度で、無料で運用できるのも自治体にとっての魅力だという。

4月号では▽JR天童南駅の開業▽サケの稚魚放流▽豆腐作り教室▽菓子作り▽の4本の動画を用意。写真の左下に動画を見ることが出来るマークを付けた。サケの放流では子どもが写真の中で動いているように見え、料理の動画では静止画像を交えながらレシピも紹介している。

視聴には無料アプリ「Aurasma(オーラスマ)」をダウンロードする必要がある。

市の担当者は「携帯端末の扱いに慣れた若い世代から、市報に関心を持ってもらうのが狙い。入り口となる市報の質も高めながら、有用な動画を紹介していきたい」と話している。

市報の特定の写真にスマートフォンをかざすと、画面の写真が動画となって楽しめる

4月号 まず4枚 若者にアピール

アイデア次第でさまざまな使い方が

- 名刺、チラシ、ポスターなどにARを設定
→紹介動画などを再生し、紙面では伝えられないことを伝える
- 各担当課でも記録写真と合わせて動画も撮影すれば、PRなどに使用可能

詳しくは、広報係へ

- ARを作成したい
- アプリをダウンロードしたいなど
- 問合せは、市長公室広報係（内線325）

職員、みな広報マン。みなさんで天童の情報を発信しましょう